

ぼくの夢・私の夢



野方小学校6年

有村 一 宏 たかひろ

ぼくの夢

ぼくの夢は、この世界の争いを全てなくすことです。こう考えたきっかけは、テレビで昔の戦争のことを放送していたのを見たことです。戦車が走り大砲をうつ所を見たとき、ぼくはおそろしくなりました。

今でも、イラクなどでは戦争が続き、ぼくたちと同じような子どもたちがぎせいになっています。ぼくは、この世界に平和をもたらすことができればいいなあと思います。この「世界に平和をもたらす」という夢をはたすには、



何かできっかけを作らないといけないと思います。どんなきっかけを作ればいいのか、まだわかりません。それに、そんなにかんたんにいかない事もわかっていきます。それでも、ぼくは争いをストップさせたいと思っています。

このことを話したら、先生は、「どうしたら戦争を防げるか、戦争のない世界にするためには、歴史を学ばないといけないよ。」と教えてくれました。ぼくは、歴史にはそんなにきょう味はなかつたけど、これからがんばって勉強してみようと思いました。

私の夢



野方小学校6年

池之上 泉 水 いずみ

私のお母さんの仕事は、かんごしです。お母さんは、いつも、「たいへん。たいへん。」と言っています。かんごしの仕事は、夜勤もあり、いそがしくてとてもたいへんなんだなあと思います。

でも、私の夢は、かんごしになることです。それは、他の人のためになる大人になりたいからです。わたしは、特別じゃなくていいから、ふつうのかんごしになりたいです。

かんごしは、病気が治せません。治すのは、お医者さんです。でも、かんごしは、かん者さんと話をしたり、病気を治す手伝いができます。かんごしは、かん者さんの一番近くにいてかん者さんを楽しませたり、笑わせたり、うれしくさせることもできると思います。だから、私は、かん者さんに好かれるかんごしになりたいです。



地方分権がうたわれて久しい。しかしながら、実態はなかなか進まないのが現実である。国から見た理想的な地方自治体の姿と、その地方に住む住民が、生活しやすい町の姿はいささか離れているようである。しかし、いつの時代も大きな負担と不便を強いられるのは個々の住民である。国と地方は平等と言われながらも、古来日本人特有の体質がこのような流れをつくったのかもしれない。いかにして自分達の町に興味を持たせ、幾多の課題解決のために個々の持つ知恵とエネルギーを注げるか、それがこれからの地方自治体活性化への引き金になるであろうと思われる。

今回の編集作業においても、どのような文面にすれば目にとめてもらえるか、また、内容はわかりやすいかなど、全編集委員による白熱した議論のもと発行にいたしました。皆様のご意見をもとに、今後さらさらに親しまれる広報紙づくりに努力してまいります。

(広報編集委員 中倉 広文)

発行責任者 大崎町議会議長

阿野 二郎